

もり、もり、とよみ。

日時 平成18年12月23日(祝) 13時~17時

対談 「21世紀の人間と“森里海連環学” 村田 泰隆((株)村田製作所 代表取締役社長)
尾池 和夫(京都大学総長)

講演 「日本の森林は今」 竹内 典之(京都大学フィールド科学教育研究センター副センター長・教授)
「林野庁から始める林業再生」 山田 壽夫(九州森林管理局長)

パネルディスカッション 「林業が“生業(なりわい)”とよみがえることが、木文化を再生する」

パネラー 小林 正美(京都大学地球環境学堂教授)
小池 一三(「近くの山の木で家をつくる運動」宣言起草者)
石出 和博(建築家、HOPグループ代表)
中島 浩一郎(銘建工業(株)代表取締役社長)
進行 天野 礼子(アウトドアライター)

挨拶 田中 克(京都大学フィールド科学教育研究センター長)

同時開催 パネル展

フィールド研の
施設及び活動紹介
午前11時~ 2階国際ホールにて

●会場：京都大学百周年時計台記念館 百周年記念ホール ●入場無料(一般公開)：定員 先着500名 申込 不要

●主催：京都大学フィールド科学教育研究センター 問い合わせは TEL.075-753-6414・6415 FAX.075-753-6451 E-mail: joho@kais.kyoto-u.ac.jp

●特別協賛：株式会社村田製作所

●協賛：株式会社大伸社、サイファアソシエーツ株式会社、全日本空輸株式会社、京都・まいづる立命館地域創造機構、NPO法人エコロジー・カフェ(順不同)

第3回 時計台対話集会

“森里海連環学”が京都大学に誕生して4年近くが経過しました。この間、森と川と海のつながりの仕組みを解明し豊かな森や川や海を再生することを目標に教育・研究・社会連携に取り組んできました。これらの取り組みを通じて、自然の再生には“里”（広い意味で都市を含めた人々が暮らす空間）のあり方が最も大切であることが明らかになってきました。森と里と海のつながりは、地球を一つの生命体に例えると、“循環・免疫系”のような役割を果たしていると思われます。私達の日本も、そして世界各国もこの森と里と海のつながりを今再生しないことには、次世代から借り受けている豊かな地球の自然を壊したまま先送りすることになってしまいます。新しい学問としての“森里海連環学”は大学の中や研究者の間だけで閉鎖的に行うものではありません。社会の様々な運動ともうまく連携することが必須と考えられます。地球の砂漠化と人々の心の砂漠化にうおいを取り戻す新しい学問としての“森里海連環学”への御理解と御支援をお願い申し上げます。

日本は国土の2/3が森で覆われ、先進諸国の中では際立った森林王国です。しかし、森林の実に4割は杉や檜の人工林で、生物多様性の減少や土砂崩落頻発など様々な問題を引き起こしています。これだけ大量に森林資源を持ちながら、日本で使用する木材の8割は外国からの輸入材です。貴重な熱帯雨林の減少や亜寒帯の針葉樹林の伐採に直接関わっています。

第3回時計台対話集会では、「森里海連環学」が日本の木文化を再生するをメインテーマに、「木文化再生」は林業の再生から始まる」ことを皆さんとともに考えてみたいと願っています。林業の再生は森を健全にし、それは豊かな川や海の再生の出発点になるからです。多数の皆様への御参加を心より願っております。

講師等略歴

村田 泰隆

むらた やすたか



(株)村田製作所代表取締役社長

1947年、京都市生まれ。72年、ニューヨーク大学数理統計学科卒業。翌年、村田製作所に入社。91年、父・昭氏の後を受け社長に就任。趣味は、蝶の研究とクラシック音楽の鑑賞。日本鱗翅学会理事、日本蝶類学会理事、日本昆虫協合理事、日本自然科学写真協会会員。

尾池 和夫

おいけ かずお



京都大学総長

1940年、東京都生まれ。63年、京都大学理学部地球物理学科卒業。03年12月、京都大学総長に就任。専門は、固体地球物理学、地震学。地震学会委員長、地震予知連絡会委員、京都市防災会議専門委員などを歴任。趣味は俳句で、氷室俳句会の同人。

竹内 典之

たけうち みちゆき



京都大学フィールド科学教育研究センター副センター長・教授

京都大学において、北海道、和歌山、芦生研究林等で、明るく豊かな人工林づくりをめざしてきた。近年、劣化の著しい人工林、二次林を対象に、密度管理、混交林への誘導や広葉樹林の造成など、森林資源の持続的な管理理論と管理技術の開発研究を行っている。

山田 壽夫

やまだ ひさお



九州森林管理局長

1951年生まれ。76年、農林省入省。林野庁林政課広報官を経て、95年、大分県に赴任して農林水産部次長、林業水産部参事を務める。99年、林野庁治山課水源地治山対策室長。01年、林野庁木材課長。03年、林野庁計画課長。06年、九州森林管理局長に就任。

小林 正美

こばやし まさみ



京都大学地球環境学堂教授

1948年、東京都生まれ。京都大学工学部土木工学科卒業。03年、新設の地球環境学堂の教授に就任。自然災害と人間居住、木製都市の設計技術を研究し、学部で都市設計学、大学院で人間環境設計論を講義。j.Pod(京都大学特許の木造建築新工法)開発チーム代表。

小池 一三

こいけ いちぞう



「近くの山の木で家をつくる運動」宣言起草者

1946年、京都市生まれ。OMソーラー協会設立に参加。同協会理事長、(財)住宅・建築省エネルギー機構理事、ソーラー住宅推進協議会会長としてソーラー住宅の普及に尽力。「愛・地球博」にて「地球を愛する100人」に選ばれる。季刊誌「住む」編集人。

石出 和博

いしで かずひろ



建築家、HOPグループ代表

1946年、北海道芦別市生まれ。気鋭の建築家集団、アトリエAMを率い、全国で作品を発表。原木の確保から製材、設計、建築までを協業化した新しい住宅供給システムHOP(ハウジングオペレーション)を育て上げた。NPO法人森をたてようネットワーク理事長。

中島 浩一郎

なかしま こういちろう



銘建工業(株)代表取締役社長

1952年、岡山県生まれ。横浜市立大学文理学部卒業後、銘建工業(株)に入社。同社は住宅や大規模建築物に使用される構造用集成材の国内トップメーカー。岡山県真庭地域の森林バイオマス活用プロジェクトの中心的な存在。NPO法人真庭熟熟長。

天野 礼子

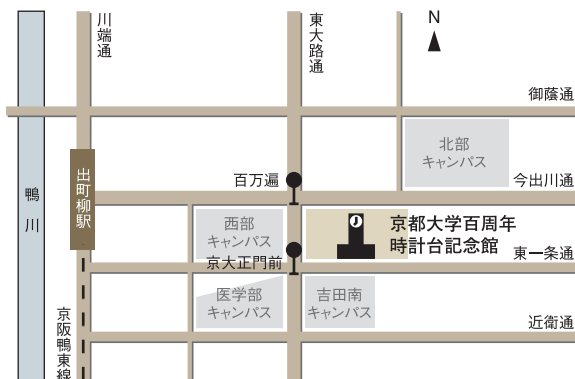
あまの れいこ



アウトライター

1953年、京都市生まれ。中学、高校、大学を同志社に学ぶ。88年、文学の師・開高健とともに「川の国」のダムに警鐘を与える国民運動を立ち上げ、育てた。近著は「林業再生」最後の挑戦。04年から高知県で、森里海の連なりを取り戻す実験を展開中。

会場までのアクセス



京都大学百周年時計台記念館 百周年記念ホール

※駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用ください。

- 京都市営バス(近鉄)から
市バス「京都駅前」より
206系統「東山通 北大路バスターミナル」行 約40分
「京大正門前」下車
- 京都市営バス(河原町通)から
市バス「錦林車庫」行 約40分
「百万遍」下車
- 阪急河原町駅から
市バス「四条河原町1」より
201系統「祇園 百万遍」行 約30分
「京大正門前」下車
- 京都市営バス(熊野・岩倉)から
市バス「熊野・岩倉」行 約30分
「京大正門前」下車

■京阪をご利用の場合
京阪「出町柳」駅下車 東へ徒歩約15分

